

パオちゃん's EYE

2025年6月1日 発行 No.99

夏のジョウビタキ

ジョウビタキは、日本では主に冬鳥として渡来し、10月頃から翌年の4月頃まで山野や水辺のほか公園や畑などでも見られます。渡来したばかりの頃は2羽以上がいっしょにいることもありますが、やがてオスもメスも1羽ずつ冬なわばりを構えます。これはえさの少ない厳冬期を乗り切るためと考えられています。人間をあまり恐れず、畑仕事などをしてしているとすぐそばまでやってくる場合があります。ジョウビタキがきっかけで野鳥の魅力に目覚め、バードウォッチングを始める人もいます。

ところで、ジョウビタキは、日本では主に冬鳥ですが、北海道や長野県など国内の数か所で繁殖が確認されています。岡山県の近隣では鳥取県の大山で繁殖が2017年以降に継続して確認されています。岡山県内でも2014年に新庄村で繁殖が確認されたことがありますが、県内ではその後の確認ができていません。これらの営巣場所は人家や車庫などの人工建造物でした。

日本国内でどのような個体が繁殖を始めたのか、非繁殖期をどこで過ごしているのかなどは今のところ不明です。冬鳥として渡来した個体がそのまま国内に留まり繁殖を始めた可能性はありますが、それは確認されていません。大山では成鳥とヒナに環境省の足環が装着されていますので、今後渡りのルートや越冬地など生態の一端が明らかになってくるかもしれません。

岡山県内で繁殖期にジョウビタキを見かけたら大発見です。また非繁殖期に見かけたジョウビタキに足環が付いていたらそれも大発見となります。



オス



メス

(写真提供：香西宏明氏)

江田伸司(動物担当)

パオちゃんズアイ66に関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp



「パオちゃん's EYE」は
博物館ホームページ
でカラーで見られる
よ!

